

知って安心

あなたのくすりと健康

聞いて安心

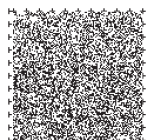
第98号

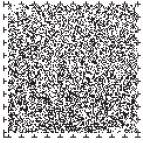
- ご存知ですか。副作用などの医薬品の安全性情報が更新されていることを
…東海大学医学部付属病院 薬剤部 鈴木 優司
- 目薬、正しく使えていますか?…横浜市立市民病院 薬剤部 湊 晴香
- 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) とがん薬物療法…藤沢湘南台病院 薬剤部 遠藤 篤



<表紙写真>くすり Get the Answers かながわ 推進委員会 ~節薬バッグをご紹介します~
神奈川県病院薬剤師会は「節薬」活動を推奨しております。

私たちは、一般市民に対して医薬品や健康に関する正しい知識の普及と啓発を目的として小冊子を発行しています。小冊子には、音声コードが印刷されています。音声読みあげアプリ「Uni-Voice」と活字文書読みあげ装置の両方で使用できますので、ご活用いただければ幸いです。





ご存じですか。副作用などの医薬品の安全性情報が更新されていることを

●医薬品が発売されるまで●

副作用など医薬品の安全性に関する情報は、医薬品が発売された後も更新され続けています。医療用として使用されている医薬品は、試験管や動物での実験により、病気に効果があり、人に使用して安全と予測されたものを新薬の候補とします。その後、治験と呼ばれる「人における試験」を経て、その成績を国が審査しています。この審査で、病気の治療に効果があり、安全に使用できると判断された医薬品が承認され発売されております。

●気がかりな症状は早めの相談を●

治験は参加人数が少なく、年齢制限があり、参加者の病状はシンプルなことが多いです。また、治験中は同時に使用する医薬品にも決まりがあり、治験薬の投与期間が短いため、治験から得られる情報には限りがあります。そのため、発売直後の新薬は情報が不十分で、医師や薬剤師ですら知らない副作用が起きることがあります。新薬処方期間を原則14日間までに制限しているのは(例外あり)、効果と副作用の発見を頻回に確認する必要があるためです。新薬に限らず医薬品を使用され、気がかりな症状が出た場合には、医師・薬剤師などの医薬関係者に早めにご相談下さい。

●医薬品の安全対策としての副作用報告●

新薬として発売された医薬品の情報は、世界で初めてその医薬品の製造承認を取得した企業により管理されています。新たな副作用情報などが集積・分析され、製薬企業が管理している情報に変更が生じると、行政機関との協議のもと添付文書などが改訂されます。そのため我々医療関係者は、皆様方が使用した医薬品でこれまで知られていない症状が出たり、入院したりするなど重篤な状態となった場合、副作用の情報を取りまとめ、報告を実施しております。

●患者の皆様からの医薬品副作用報告●

平成31年3月26日より「患者の皆様からの医薬品副作用報告」も開始されました。この報告制度の目的は、皆様からも副作用が疑われる医薬品の情報を直接収集することで、医薬品の安全対策を向上させることです。その報告方法は下記参考資料のウェブサイトでの直接入力か郵送によるもので、報告された情報は医薬品の安全対策の目的のみに利用されます。

ウェブサイトからの報告では下記表の内容を事前に準備されると入力が容易になります。

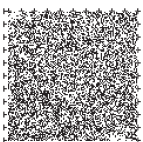
参考資料：「患者の皆様からの医薬品副作用報告」<https://www.pmda.go.jp/safety/reports/patients/0004.html>

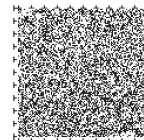
報告される方	副作用が現れた方	医薬品について	症状について
お名前	ご本人かご家族か	疑われる医薬品名	症状
ご住所	性別	服用開始日	いつから
メールアドレス	年齢	服用終了日	治療の有無とその後
医薬品を使用した目的		情報を聞くことができる医療機関有りの場合	
かかっていた病気		副作用が現れた方のお名前	
かかったことのある病気とその時期		医療機関の連絡先(名称・住所)	

●気がかりな症状が出た際にはご相談を●

医薬品の安全性情報は、皆様方からの情報をもとに修正されております。医薬品が安全に使用できるよう病院薬剤師は皆様方を全力でサポートしてまいります。医薬品に関して気がかりな症状が出た場合には、医薬品の専門家である病院薬剤師にご相談下さい。

東海大学医学部付属病院 薬剤部 鈴木 優司
キーワード：治験、副作用、患者





目薬、正しく使えていますか？

皆さんは普段どのように目薬をさしていますか？

日常生活で使うことの多い目薬。せっかくの目薬も、使い方を誤るとお薬の効果を十分に発揮することができないだけでなく、かえって目を危険にさらしてしまいます。目薬を使っている人で、正しく点眼できている人は半分以下といわれているそうです。ご自身の目薬の使い方について、正しく行えているかチェックしてみましょう。



1. 目薬をさす前後は、十分な手洗いやアルコール等による手指消毒を行う。

新型コロナウイルスは目の結膜からも感染する可能性があるといわれています。様々な感染予防のためにも、手指衛生を心掛けましょう。



2. 容器の先端が瞼やまつ毛、目に触れないように注意する。

容器の先端が瞼やまつ毛、目に触れると、汚染や目を傷つける危険性があります。手ブレが気になる場合は「げんこつ法」というさし方を試してみましょう。片手でげんこつ（ゲー）を作り、親指と人差し指で作った輪の部分頬骨の上において下瞼を引き下げ、反対の手を拳骨の上のせて点眼する方法です。

3. 目薬をさした後は、目を閉じ1～2分ほど目頭を軽く押さえる。

まばたきをするとせっかくさした目薬が目の外へ流れ出てしまいます。目を閉じ1～2分ほど目頭を軽く押さえましょう。押さえることで鼻の方に目薬が抜けていくのを防ぐことができます。

4. 特別に医師の指示がない限りは、1回1滴で十分たりる。

目薬の1滴量は約30～50 μ Lであるのに対し、目の表面が保てる水分量は約30 μ Lと少量です。一度に多くさしても目からあふれ出るだけで効果は変わりません。あふれた目薬はかぶれや色素沈着を起こす恐れがありますので、優しく拭き取りましょう。

5. 2種類以上目薬をさす場合は、5分以上間隔をあける。

それぞれの目薬の効果をしっかり出すためにも5分以上間隔をあけましょう。順番は通常、水性→懸濁性（使用前に振るタイプ）→油性→ゲル化→眼軟膏とすることが多いです。懸濁性の目薬はさした後10分、ゲル化タイプの目薬はさす前10分程度間隔をあけた方がよいです。

6. 通常、開封後の使用期限の目安は医療用で1か月、市販の目薬で3か月。余っていても廃棄する。

防腐剤が含まれていないタイプの目薬や抗生物質などの一部の目薬は、さらに期限が短い場合があるため注意が必要です。期限を忘れないように、目薬に開封日を記載しておくとい良いでしょう。

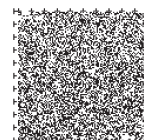
7. 目薬をさした後にコンタクトレンズを再装着する場合は、5～10分程度間隔をあける。

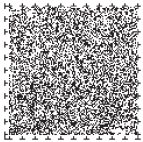
コンタクトレンズを外して使用するよう指示のある目薬の場合は、影響を防ぐため、5～10分程度間隔をあけてから再装着しましょう。

横浜市立市民病院 薬剤部 湊 晴香

参考資料：点眼剤の適正使用ハンドブック 社団法人 日本眼科医会 監修

キーワード：目薬、目薬のさし方、げんこつ法





新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とがん薬物療法

がん薬物療法は、科学的な根拠（エビデンス）に基づいた観点で有効かつ安全に行われています。しかしながら、コロナ禍におけるがん薬物療法については、エビデンスが乏しく、困惑している患者さんやご家族が多いかもしれません。現時点（2020年7月29日更新）で、がん関連の3つの学会が情報提供しているがん薬物療法と新型コロナウイルス感染症の考え方についてお知らせします。

化学療法：細胞障害性抗がん剤（抗がん剤）

細胞障害性抗がん剤は、骨髄抑制（好中球減少）によるウイルス感染症の発症や増悪化のリスクが懸念されます。一方、それらは、がんの種類や年齢によって異なるとの報告もあります。したがって、医師・看護師・薬剤師などの多くの医療スタッフで結成されているチームで、個々の患者さんにおける感染予防対策や治療継続または変更について検討します。また、患者さんは、コロナ禍での発熱や息切れがあった場合の対応を事前に主治医と確認しておくことがとても大切です。

分子標的療法：分子標的治療薬

多くの分子標的治療薬では、感染リスクは上昇しないと言われています。特に、乳がんや肺がん、悪性黒色腫（皮膚がん）では、強力な抗腫瘍効果が期待されることから治療の継続が推奨されています。但し、一部の薬剤では、薬剤性肺炎により新型コロナウイルス肺炎の診断が遅れたり、白血球減少によるCOVID-19の発症リスクが高まるため注意が必要です。

免疫療法：免疫チェックポイント阻害剤（ICIs）

ICIsによってCOVID-19の発症リスクが高まるデータはないため、積極的に中止を推奨する根拠はありません。但し、ICIsは分子標的治療薬のひとつですので、薬剤性肺炎により新型コロナウイルス肺炎の診断の遅れについては注意が必要です。

内分泌療法：ホルモン剤

ホルモン剤は、治療が効果的であれば継続します。また、白血球が減少する抗がん剤より優先されます。長時間（3カ月や6カ月）作用する注射剤であれば通院の回数を減らすことができます。

コロナ禍におけるがん薬物療法では、地域の流行状況や来院による感染リスク、がんの種類・状態、治療目的等を考慮し、各治療薬の有益性と不利益を検討します。そのうえで、がん薬物療法の継続や延期、中断等を個別に判断します。がん薬物療法だけでなくがん治療全般について、自己判断せずに主治医や薬剤師とよく相談しましょう。

藤沢湘南台病院 薬剤部 遠藤 篤

参考資料：日本癌治療学会、日本癌学会、日本臨床腫瘍学会（3学会合同作成）がん診療と新型コロナウイルス感染症：医療従事者向けQ&A改訂第2版、がん患者さん向けQ&A改訂第2版
(<https://www.jsmo.or.jp/>)

キーワード：新型コロナウイルス感染症、がん薬物療法、がん治療

《編集後記》活躍する薬剤師を紹介しています。今後も様々な事業を企画してまいります。

《発行》公益社団法人 神奈川県病院薬剤師会 GTA 委員会

〒235-0007 横浜市磯子区西町14-11 神奈川県総合薬事保健センター 4階

ホームページ <https://www.kshp.jp/>

